

平成 18 年度事後評価シート（平成 17 年度に実施した施策）

施策番号	- 6 - (3)	評価年月	平成 18 年 4 月
施策名	リスクコミュニケーションの推進	担当部局	環境保健部
		評価者	環境安全課長 上家 和子

施策の位置づけ

第二次環境基本計画における位置づけ(第3部)			平成 17 年版環境白書における位置づけ(201 ページ以降)		
政策(章)	2 章	環境保全施策の体系	政策(章)	5 章	化学物質対策
施策(節)	1 節	5 化学物質対策	施策(節)	2 節	環境リスクの低減及びコミュニケーションの推進
その他関連する個別計画		-			

環境白書内「平成 17 年度環境の保全に関する施策」より該当箇所を記載

施策について

施策の目標	< 施策の概要及び求める成果 >				
	リスクコミュニケーションに資する情報の整備、対話の推進及び場の提供を図ることを通じて、化学物質に関するリスクコミュニケーションを推進し、市民、産業、行政等のすべての利害関係者における化学物質の環境リスクに係る正確で分かりやすい情報の共有と信頼関係の構築に努める。				
予算動向		H15 年度当初	H16 年度当初	H17 年度当初	< 備考 >
	金額(単位:千円)	49.397	62.530	67.873	
	一般会計	49.397	62.530	67.873	
	特別会計	0	0	0	

施策の目標に対する総合的な評価

指 標 名	単 位	H15 年度	H16 年度	H17 年度	目標値	H21 年度
化学物質ファクトシートの作成(物質)等	物質	約 50	約 50(既作成済約 50 の情報更新)	約 50(既作成済約 100 の情報更新)	-	PRTR 対象の 354 (根拠:化管法)
化学物質と環境円卓会議	回	3	4	4	-	当面定期的開催

化学物質のリスクコミュニケーションについては、化学物質ファクトシートやかんたん化学物質ガイドの作成等の情報の整備、化学物質アドバイザー派遣等の対話の推進、化学物質と環境円卓会議の開催等の場の提供等着実に進め、各事業について、参加者や利用者等から高い評価を得ており、目標達成に向け進展があった。しかしながら、化学物質と環境円卓会議については、参加者が固定化する傾向にある。

(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)

残された課題・新たな課題

化学物質と環境円卓会議については、より幅広い利害関係者の参画を促す観点からの参加者の拡大。

今後の取組

各事業の質を高く維持しつつ、化学物質と環境円卓会議の開催や事業の成果物の普及に係る広報や化学物質と環境円卓会議の地方開催などにより、より広くリスクコミュニケーションの普及を図る。

施策の方向性		施策の改善・見直し
	-a	施策の重点化等
	-b	施策の一部の廃止・完了・休止・中止
		取組を引き続き推進
		施策の廃止・完了・休止・中止
	機構要求を図る	
	定員要求を図る	

今後の施策の方向性	予算要求等への反映	
	機構・定員要求への反映	-

当該施策の中の下位の目標及び指標等（該当無し）

評価・分析（必要性・有効性・効率性等の観点から簡潔に分析）

【必要性・有効性】

ファクトシートについては、化学物質の物性、毒性、用途、PRTR 排出量、規制等について簡潔にまとめられ、かつ、環境省及び専門家の確認を得た信頼性、客観性の高い情報として、事業者・住民・地方公共団体等幅広い者に利用され、高い評価を得ている。

円卓会議については、平成 17 年度は化学物質対策の基本的な方向性に関する議題を 2 回、地方に密着した化学物質対策に関する議題を 2 回とりあげ、毎回 100 名を超える参加者（傍聴者）があり、アンケート等では市民・産業・行政が自由な立場で意見交換をする場として高い評価を得ている。

このほか、市民が身近なところから排出される化学物質や化学物質の環境リスクについて考えるきっかけを提供するための小冊子、「かんたん化学物質ガイド」の発行や化学物質の環境リスクについて中立的かつ客観的な情報提供を行う化学物質アドバイザーの講習・登録・派遣を試行的に行うパイロット事業等を実施し、「かんたん化学物質ガイド」については増刷を要する等利用者から高い評価を得ている。

ファクトシートやかんたん化学物質ガイドといった成果物や円卓会議等の成果・記録は、ホームページや記事に掲載され、広く利用に供されている。円卓会議については、地方開催などを通じてより多くの国民に参加の機会を提供することが課題。

【効率性】

化学物質の内分泌かく乱に関する国際シンポジウム及び小児等の環境保健に関する国際シンポジウム等の開催、PRTR や化学物質環境実態調査等に係る HP や一般向け解説資料の作成等、個別課題に関するリスクコミュニケーションを実施しており、参加者・利用者の声を反映しつつ効率的に運用を図っている。

特記事項

< 昨年からの変更点 >

目標体系の見直しにより、昨年度評価書の下位目標 1 を、当該年度評価書 -6-(2)の下位目標 4 へ整理・適正化し、また昨年度評価書の下位目標 2 を目標に統合・整理した。

昨年度評価書の下位目標 2 で設定していた化学物質アドバイザー事業は、現在パイロット事業期間中であり、登録者数は 25 名に固定して運用しており、派遣回数拡大を図ることが困難になっていることから、評価指標として妥当性を欠くため、今回指標から削除した。

< 内閣としての重要施策等 >

-

予算事項（事務事業）について

当該施策に関する主な政策手段等（法律・税制等）

-

下位目標 番号	関連する予算事項名及びその予算額(千円)	関連する予算事項名及びその予算額(千円)		
		H17 当初	H18 当初	H19 反映
目標	化学物質(環境)安全社会推進費	68,615	70,288	

終期を迎えた予算事項についての分析・検証

予算事項 番号	分析・検証	今後の対応策
-	-	-

< 別紙 > 政策効果把握の手法及び関連指標

施策番号 及び施策名	- 6 - (3) リスクコミュニケーションの推進	目 標
指標名	化学物質ファクトシートの作成(物質)等 化学物質と環境円卓会議	
指標の解説	新規ファクトシート作成対象物質数及び既存シート更新対象物質数 化学物質と環境円卓会議の年間開催回数	
評価に用いた 資料等	化学物質ファクトシート(公開) 化学物質と環境円卓会議のホームページ(公開)	



指標に影響を 及ぼす外部要因	-
-------------------	---